

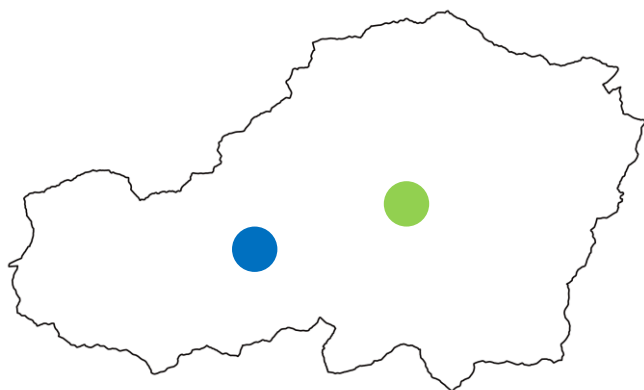
市町村担当課名	天川村 健康福祉課
---------	-----------

通いの場の立ち上げに向けて

天川村では、介護保険料が日本一となったことで、介護予防の取り組みがさらに重要視されることになった。住民自らが「介護」について考え、介護予防に取り組めるよう、住民が主体となった介護予防のノウハウを学ぶために国のモデル事業に取り組んだ。

1 天川村の基礎情報

天川村



凡例

- 新規で立ち上がった通いの場
- モデル事業で活用した既存の通いの場

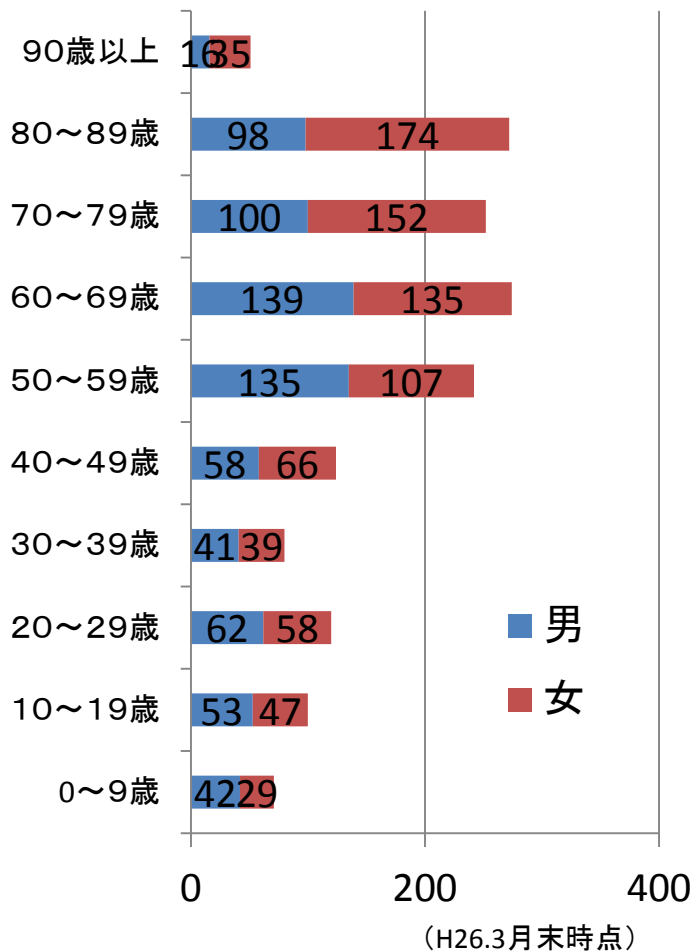
高齢者人口	689 人
高齢化率	44.82 %
認定率	27.4 %
第1号保険料月額	8,686 円

(H27.12月末時点)

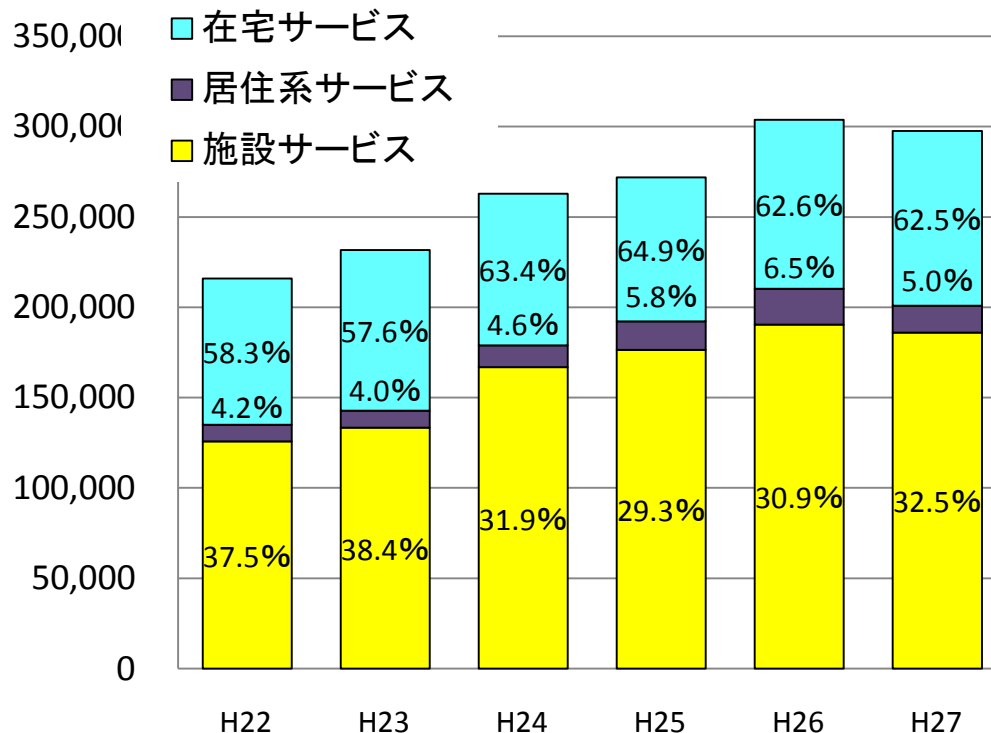


1 天川村の基礎情報

人口分布



天川村の介護サービス等給付費と
構成比の推移



第6期介護保険事業計画より

1 天川村の基礎情報

【体制】

健康福祉課
(職員7名)

課長

※社会福祉協議会局長
診療所事務長兼任

課長補佐

事務職員2名

保健師2名

保育士1名

課内業務

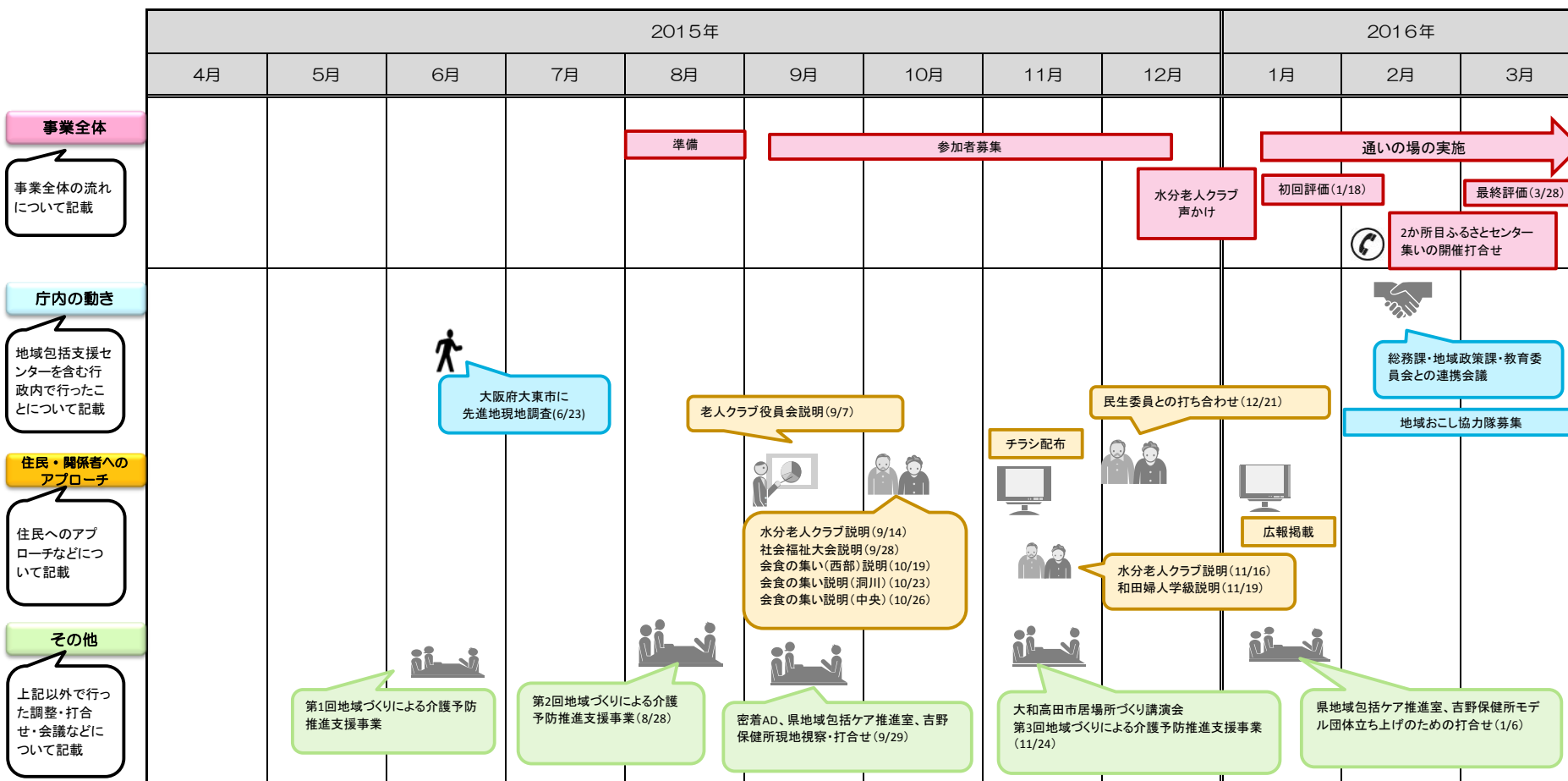
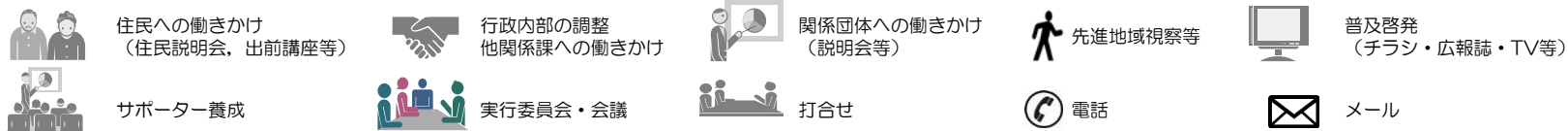
- 福祉全般(生活保護・民生委員等)
- 障害福祉(身障手帳・障害認定等)
- 児童福祉(児童手当・虐待等)
- 介護保険(地域包括支援センター直営)
- 衛生(動物愛護)
- 施設管理(診療所・保健福祉総合センター)
- 診療所(事務・患者送迎・往診送迎)
- 保育所

保健師業務

- 保健事業全般
- 特定健康診査・特定保健指導
- 介護保険認定調査
- 地域包括支援センター(保健師・主任介護支援専門員兼任)
- 精神障害者医療費助成

通いの場を担当できる職員は
保健師1名(保健事業兼務)

2 天川村のスケジュール



3 天川村の取組

【取り組みのきっかけ】

●天川村の介護の現状と課題

天川村では、在宅介護サービスが不足している。高齢者世帯の増加により、介護が必要になると在宅生活が困難なため、施設入所せざるをえない状況にある。住民自身も介護が必要になったら施設に入れてもらうという意識があり、そのため給付がどんどん増えていき、ついに介護保険料が日本一になった。

●従来の介護予防の取り組みと課題

脳のトレーニング教室、運動機能向上教室を毎年9月から翌年3月までの半年間、週1回介護予防事業として実施していたが、参加する人は限定され、教室終了後の受け皿がなかった。

3 天川村の取組

介護保険料が日本一となったことをきっかけにマスコミ等にも取り上げられ、村全体で「介護」への関心が高まった。

国のモデル事業を通して、住民自身の運営による通いの場づくりのノウハウを学び、住民自身が「介護」について考え、自ら介護予防に取り組む実践につなげたい。



モデル事業へ参加

3 天川村の取組

【実際の取り組み】

●いきいき百歳体操を実施するグループの募集

担当者が保健師1名のため、保健所保健師の協力のもと、事業の進め方を検討した。チラシを作成し、社会福祉大会や会食の集い等、高齢者の集まる場所を活用し、参加を呼びかけ、「やりたい」という声があがるのを待った。

住民の反応

興味を示してくれるものの、高齢者の割合が多く、自分が中心となって通いの場を始めることに抵抗があるのか、グループとしての申込みがない状態。

3 天川村の取組

担当者の思い

- ・参加を呼びかけても期待していた反応がない。
- ・住民からの「やってみたい」という声があがるのをいつまで待っていたらいいのだろうか？
- ・こちらから声をかけたらやってくれそうなグループはあるが、「住民主体」が前提なので、役場から声をかけて良いのだろうか？



大和高田市居場所づくり講演会に参加。地域づくりによる介護予防研修会においてアドバイザーや他のモデル地域の担当者からの助言をもとに、少ない人口では新しい人材の発掘は難しいことから、既存のグループに働きかけ、実施することになった。

3 天川村の取組

●水分老人クラブでの通いの場開始

この水分老人クラブを選んだ理由

- ・支部会長と女性部長が活動に熱心。体操に関心を持ち、2回出前講座にて体操を実施していた。
- ・モデル的に実施をしてもらえないかと協力依頼したところ、当面は役場も手伝うことで承諾を得られた。

担当者の思い

- ・始めることにはなったが何人集まってくれるのだろうか？
- ・鍵を開けたり、物品を用意したり、どこまで自分達でしてくれるのだろうか？

3 天川村の取組

実施時期 平成28年1月～3月

支援内容 3ヶ月で4回職員を派遣する(1・2・3回目、3か月後)
 ※モデル地区は経過観察のため、3ヶ月毎週派遣予定
 様子を見て働きかけ、日数を検討する

1回目	説明会	<ul style="list-style-type: none"> ・淡路市のDVD使用 ・介護予防の必要性 ・体操時の注意事項 	<ul style="list-style-type: none"> ・村の現状 ・体操の効果
2回目	体力測定	<ul style="list-style-type: none"> ・握力 ・開眼片足立ち ・主観的健康観 	<ul style="list-style-type: none"> ・TUG
3回目	運動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・おもりの説明 	
3か月後	体力測定	<ul style="list-style-type: none"> ・握力 ・開眼片足立ち ・主観的健康観 	<ul style="list-style-type: none"> ・TUG ・アンケート



3 天川村の取組

実施する上で工夫した点

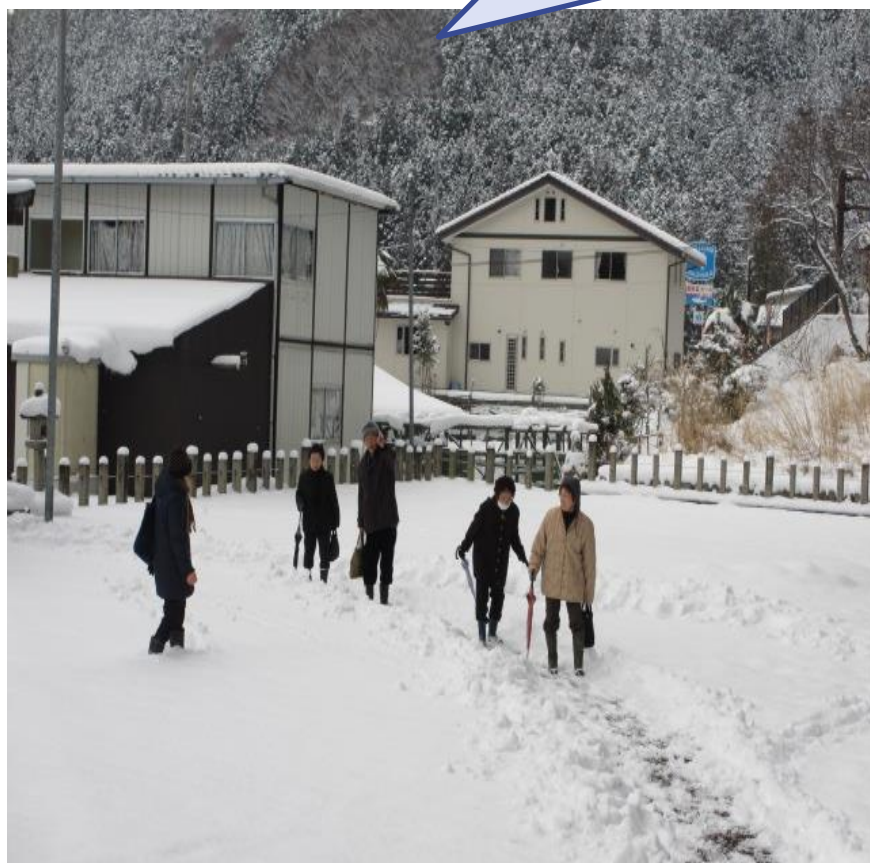
- ・チラシを作成し、支部長に渡した。その際国のモデル事業だということを説明し、会員にアピールしてもらった。その結果17名の参加があった。
- ・初回に説明会を実施。淡路市のDVDを使用することによって、通いの場のイメージを持ってもらうように心がけた。
- ・県からも自主運営についてアピールしてもらった。

住民の反応

- ・2回目以降も20名程の参加があり、自分達で会場の準備を行い、体操後はゲーム等をしてほぼ自主運営の状態となっている。
- ・「家でじっと一人でいるより楽しい」や会場より少し距離がある人も「歩いて帰るのも運動だから」という声があった。

3 天川村の取組

2回目は大雪の日でしたが、
みなさん参加してくれました！



3 天川村の取組

【今後に向けて】

- ・モデル地区として通いの場を行うことにより、体操や人との交流を通して、効果を体感し、今後も継続してもらえるように支援していきたい。
- ・今回老人クラブの支部を対象としたことにより、老人クラブ連合会会長が他の支部にも周知していきたいと関心を示してくれている。今後は、参加者を通じて他のグループの参加へと繋がっていくように取り組みを行っていきたい。
- ・村の体制としては、地域おこし協力隊（介護予防を中心に活動予定）を募集し、不足する人材の補充が予定されている。また2月中に庁内会議が立ち上がる予定であり、庁内会議を中心に、役場全体で他の事業と共同しながら、住民運営の通いの場の拡大につなげていきたい。